

29TH-am04

健康食品の安全性に関する研究（第8報）ガーリック健康食品とトルブタミドの相互作用について

○大重 明日香¹, 川添 禎浩¹, 橋本 香織¹, 北條 康司¹, 小野 浩重²(¹京都府大院生命環境科学, ²就実大薬)

【目的】近年、健康志向の高まりと共に健康食品が多数市販されている一方で、服用中の医薬品との併用による相互作用を含む安全性が懸念されている。ガーリック(にんにく *Allium sativum*)は香味料として日常的に摂取されているが、ガーリック健康食品としては主に滋養・強壮効果を謳って市販されている。我々は、ヒトにおける科学的実証は不十分であるが、ガーリックが血糖値に影響をおよぼすことに着目し、血糖降下薬トルブタミド(TB)との併用による相互作用の可能性について、マウスにおける血中TB濃度と血糖値の変動および市販ガーリック健康食品中の主要生理活性成分アリインの含量の視点からまとめたので報告する。

【方法】7週齢のICR系雄性マウスを用いて、粉末飼料(TB群)あるいは2.0%ガーリックパウダー添加飼料(GRC+TB群)を与えて7日間飼育した後、TBを経口あるいは腹腔内投与して血中TB濃度と血糖値を経時的に測定した。また市販ガーリック健康食品について、アリインを抽出してその含量をフルオレスカミン誘導体化蛍光検出器付HPLC法により測定した。

【結果・考察】TB経口投与後の血中TB濃度は、GRC+TB群において有意に高くなった。血糖降下度についてもGRC+TB群において高い傾向が見られた。しかし腹腔内投与後の血中TB濃度はTB群とGRC+TB群間に差が見られなかった。従って、ガーリックを摂取することで血中TB濃度が上昇し、TB単独投与時以上に血糖値が低下する傾向にあり、それにはTBの吸収過程にガーリックが影響している可能性が考えられた。また市販ガーリック健康食品の一日摂取目安量中に含まれるアリイン量は、動物実験でのアリイン摂取量よりも少量であった。今後はガーリック健康食品の長期摂取の観点から相互作用を検討する必要がある。